こんな活動です

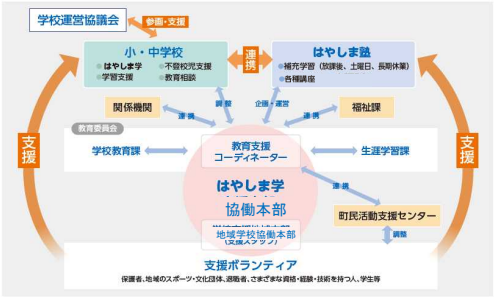
SDGsを踏まえた協働・協学・協育のまちづくり
～早島・夢の宝島プロジェクト～

岡山県早島町	●活動名	●関係する学校名
	早島町地域学校協働本部	早島小学校　早島中学校

協働活動開始年度	平成　25　年度	関係学校数	2　校	のべ学級数	46　学級	のべ児童・生徒数	1164　人	
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成					
	地域未来塾	放課後子供教室						
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数					
	―		11人					
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有			
	平成20年4月1日設置		159人					
参考URL	www.town.hayashima.lg.jp/kosodatekyoiku/hayashima_kyouiku/index.html							

●連絡先　早島町教育委員会生涯学習課　☎ 086-482-1511

●体制図



●活動の概要・経緯

15歳の春を見据えた持続可能な教育の実現に向けて，学校園（保幼小中）・地域・行政が，目指す子ども像「地域とつながり未来を拓く 早島っ子の育成」を共有し，一体となった取組を進めている。全ての町民が学び合い，育ち合う環境をつくることで，子どもたちは早島で学ぶことを誇りに思い，町民も共に学び共に育つ地域を誇りに思う，こうした「協働・協学・協育」の町づくりを目指し，一貫教育の推進，地域を考える「はやしま学」の創設，学習サポートボランティアの拡充に取り組んでいる。また，幼小中で一体的に実施する「はやしま学園運営協議会」では，学校園の運営や教育活動の計画・実施・評価を行うとともに，協議会の中に3部会（学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会）を設け，各部会での取組をはやしま学協働本部の活動に反映している。

平成20年4月に早島小学校・早島中学校にコミュニティ・スクールを導入し，学校運営協議会を立ち上げる。平成25年10月に「早島町学校教育ビジョン」を策定し，「はやしま学協働本部」を立ち上げる。平成27・28年度にコミュニティ・スクールの国の研究指定を受け，学校運営協議会等の更なる充実を図る。町全体で目指す子ども像を共有し，その具現化に努め，平成27年6月に「教育のまち・早島」を宣言。現在，「教育のまち，生涯学習のまち」として，地域に根付いた様々な取組を展開している。平成29～32年度にESDの国の研究指定を受け，中学校区でSDGsとESDの視点を踏まえたカリキュラムの構築を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○多様な学習機会の拡充…放課後や休日等の子どもの学び場として，地域ボランティアや大学生が学習支援を行う「はやしま塾」や「わくわく算数教室」，地域住民や留学生と地域をめぐり，地域を知る「ロゲイニング」，国際人としての基礎を培い，留学生等と生きた英語に触れる「Enjoy English Juku」「English Bus」「英語暗唱大会」，夏休みの学習・体験の場づくり「わくわくサマーホリデー25日間」等を開催し，多くの地域人材を活用して多様な学習機会を子どもたちに設けている。その際，ICTのカルテックも活用している。
○一貫教育の推進…学校の教育課程に「はやしま学」を位置づけ，総合的な学習の時間等でESDの視点を踏まえたカリキュラムの構築を行うとともに，保幼小中の校種・学年を越えた単元学習プログラムをいくつか作成し，交流授業の充実を図っている。
○子どもの活躍の場づくり…地域課題について子どもと大人が意見交流をする「熟議」，幼小中の子どもが持続可能な町づくりに向けて自らの考えを提案する「子ども議会」，学校園で ESDの視点で探究してきたことを町民に発信する「子どもフォーラム」，中高生が企画・運営する「花ござピンポン世界大会」等，子どもたちが地域について考え，社会の一員として提案・発信する場を設けている。

【実施に当たっての工夫】

○「早島っ子サポートボランティア制度」を創設し，地域住民や学生を中心にボランティア登録を呼びかけている。学生の募集に関しては，コーディネーターが近隣の大学に直接出向き，内容説明をしたうえで，「学生ボランティアガイド」を配付し参加を募集している。また，各学校園で必要な学習支援ボランティアを随時コーディネートして，学校園の豊かな教育活動をサポートしている。
○成人対象の「まなびの舎講座」を一定以上受講した住民を「はやしま学応援サポーター」として認定し，はやしま学の各事業に携わる仕組みを確立している。
○近隣大学と連携し，留学生が講師やスタッフとして事業に参加しているほか，子どもたちが大学を訪問し，留学生や大学講師との交流を図っている。また、「わくわくサマーホリデー」等では，アスエコ等のNPOの方に講師として参加してもらっている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○地域をフィールドに様々な体験学習に取り組むことで，郷土理解を深め，郷土愛を育むことができた。
○地域の方が学校園の授業に入ったり，子どもたちが地域活動に参加したり，子どもと大人が共によりよい町づくりに向けて意見交換する場があることで，学校応援団が増えるとともに，地域ぐるみで子どもを育てる環境の整備が進んだ。
○留学生との交流を通し，世界を視野に入れた将来の夢や希望・志を抱くきっかけとなった。また，国際理解や英語でのコミュニケーションに関心をもち，間違いを恐れず積極的に英語を話そうとしたり，互いを尊重する姿勢が見られた。
○子ども議会での提案が実現するなど，子ども自らが地域の新たな魅力を創造することで，地域への関心が高まり，社会貢献意識が高揚した。

● その他

○年2回実施の「はやしま意見交流会（熟議）」では，「地域の防災力向上のために」，「SDGsの町づくり～誇りをもち住み続けたくなる町プロジェクト～」等，様々な地域課題を共有し，意見交換することで，地域の方との絆を深めるとともに，学校応援団を増やしている。
○夏休みの「わくわくサマーホリデー」では，夏休みの25日間（学習タイム15日，体験タイム10日），小4～小6の児童が9時から12時まで，規則正しい生活リズムを身に付け，普段できないような体験を楽しんでいる。

地域の大人と子どもが様々な地域課題について意見交流（熟議）

わくわくサマーホリデー（地域住民とビオトープの生物調査）